

今年の夏も、日本列島は猛暑、豪雨に見舞われています。この異常気象は今や常態化し、異常という言葉も使いにくくなるほど、この時期当たり前の気象になってしまった感があります。

この暑い夏、医学部6年生の学生さん達は、休む間もなく医師国家試験に向けて猛勉強を続けています。私どもが受験した40年前の遠い過去においては、6年生の夏休みは、各自が自分の判断によって、地域の病院で泊り込み実習をしたり、体育大会で頑張ったり、あるいは社会活動を行ったりと、学生時代にしかできないことに時間を使える貴重な期間でした。現在の国家試験は、受験者にそういった自由な選択をする余裕を与えてはくれません。

その最大の要因は、医師国家試験が資格試験であるにも関わらず、合格基準が絶対評価ではなく、相対評価になっていることにあります。すなわち、現在の医師国家試験の本質は、受験者が皆どんなにできても一定割合は必ず落ちる競争試験になっているということです。各大学は100%合格を目指して卒業生を絞り込みますが、そういった折り紙つきの学生さんのなかから、さらに1割は必ず落ちる過酷な椅子取りゲームとなっているのが実態です。

そういった試験に対処するためには、臨床実習どころではない、予備校の力に頼らなければならない、ということになってきます。現在の医師国家試験のあり方が、卒前医学教育に及ぼしている影響は計り知れないものがあります。

今度の第112回医師国家試験では、問題数が100題減り400題に、期間は1日短縮し2日間になります。受験生の負担軽減のためということのようですが、実質的な負担は変わりません。内容的には、臨床実習で経験した内容を問うような臨床実地重視の方向性にあり、問題も吟味された良問が増えています。ただ、いくら内容が改善されても、相対評価が続く限り、大学においてしっかりと臨床実習が行いにくい状況は変わりありません。

難しい国家試験が行われているのは、医師の質的レベルを問う国民の納得を得るため、という面があるかもしれませんが、しかしいずれは、先進諸外国のように、難しい国家試験による絞り込みではなく、大学の社会的信頼度を高める努力が必要ですが、その卒業判定を尊重してもらうことで、大学が本来の医学教育を行えるような国になることを願っています。

(土田哲也)

— 顧 問 —

肥田野信 大原國章

— 編集委員 —

大塚藤男 土田哲也 五十嵐敦之 相馬良直 林 伸和

「皮膚科の臨床」第59巻 第10号 9月号

2017年9月1日発行（毎月1回1日発行）

定 価（本体 2,700 円＋税）

年間購読料金 定価（本体 42,100 円＋税）

〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発 行 所 金原出版株式会社

発 行 者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕

TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕

FAX 03(3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

雑 誌 部 振替口座 00130-1-191269

印 刷 所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600

- ・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は金原出版株式会社が保有します。

- ・**JCOPY**＜(社)出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。